

【総務市民常任委員会】

意見交換（ワークショップ）で出されたご意見を「災害前・災害時・災害後」に分類し、今後の委員会に活かしてまいります。

災害前

・要支援者登録について。個人情報に気にしすぎる市。公民館防火管理者。
・要支援者、民生員と確認に行く。
・被災地に学ぶ。
・日頃のコミュニケーション。公民館での情報交換。
・災害対応について、行政区で自主防災・防犯対策委員会を組織して（14名～15名）対応している。年3回～4回会議をしている。危険個所の確認。交通、大雨時等の時。
・非常食の購入助成を（常備用）。
・公民館で避難訓練を毎年1回実施している。
・各地区で様々に訓練しています。立明寺では救急法や消火訓練、また敬老会のときの安否確認などを行っています。山口コミュニティでは山口小でのキャンプはダンボールでのねぐらづくりをしています。山口コミュニティでも訓練をしています。
・コミュニケーション力の育成。
・災害情報の伝達。より正確な組織に。
・防災訓練の経験がない。行政は主導しないのか。
・災害の種類別に対応策を分ける必要がある。
・個人情報保護は分かるがせめて組長にも情報がほしい。
・地域に自衛隊OBがいるので訓練の指導をうけている。
・筑紫南コミュニティーでは防災計画を確立し訓練を行う予定
・備蓄品の充実
・高齢者対策、緊急時情報カード導入を開始しました。
・災害時の障がい者救助で、全て把握出来ていない。
・警固断層、宇美断層が筑紫野市内に及んでるが、ハザードマップに明確に説明されていないが。
・団地内のコミュニケーション不足。近隣の顔も分からない。組単位でのコミュニケーション対策が必要。
・防災訓練の重複
・危険地域のマップを市民全員に知らせてほしい
・防災用の備品を（食料品・水）ヘルメット等をなるべく安く販売して欲しい。
・行政区単位の自主防災訓練
・防災訓練の重複
・自治会で年一回避難訓練しているが中々参加できない。
・地域の安全安心は良くなっている。防災訓練で消火器や担架の使用を学んだ。
・AED、消火器訓練実施している。
・7つのコミュニティー毎の防災計画が必要。
・公民館にも災害用の備蓄をすすめている。毛布・食料・水等。
・自主防災組織を設立し防災訓練を実施している。年二回。

災害前

<ul style="list-style-type: none"> ・防犯の観点から各家庭の門灯を点けるようお願いしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災への対応 行政区での検討会実施
<ul style="list-style-type: none"> ・お風呂のお湯はすぐ捨てない、非常食の確保等 ・基本的な災害対策を個人が行うよう指導を徹底
<ul style="list-style-type: none"> ・古い家取り壊し対策は自分ではできない。
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティが必要 1) 広報活動 2) 各自の活動
<ul style="list-style-type: none"> ・危険箇所のチェック、改善
<ul style="list-style-type: none"> ・3月に第1回防災検討会議実施。6月末に第2回防災検討会議 自治会では100食分の水、米、クラッカーを準備していますが、各家庭でも最低3日間の食料を準備してくださいとお願いしています。
<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練を年単位で行う。 ・災害時の高齢者に対する対応、独居老人や認知症の方に対して。
<ul style="list-style-type: none"> ・地区の中高生徒の活用・弱者の救援マニュアル・避難所の訓練・飛行機墜落時の体制
<ul style="list-style-type: none"> ・原田婦人防火クラブは防災フェスタに参加し啓蒙を行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・町内会単位で防災組織をつくっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練は年1回はするが参加者が少ない、意識がうすい
<ul style="list-style-type: none"> ・避難場所は決まっているが、平和ボケ、安全ボケで災害に対する意識がうすい。
<ul style="list-style-type: none"> ・自助努力*他人事ではないという意識が大事
<ul style="list-style-type: none"> ・要援護者の対応が形だけのものになっている
<ul style="list-style-type: none"> ・防災だけでなく減災対策にも注力する
<ul style="list-style-type: none"> ・市役所では雨量計の設置はないのか ・九州北部水害後に市に聞いたらその時点ではないとのこと ・現在の所在地 マンション 自治会コミュニティ防災連絡を進めている。
<ul style="list-style-type: none"> ・一人で動くことが難しい方の把握 *個人情報等で当マンションでも把握がむずかしいが・・・
<ul style="list-style-type: none"> ・大雨対応 危険地域の再確認。
<ul style="list-style-type: none"> ・山口川の針摺・永岡地域は河川改良が進んでいるが、宝満川の計画は県の事業と思うが今後の計画を市がどこまで把握されているか。
<ul style="list-style-type: none"> ・消火栓の整備を。高齢化で、ポンプが重い、水利のない所がある。消防団は昼間いない。
<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織はそれぞれの温度差がある。9戸と500戸の行政区の人口の開きもあり、広域組織とすべき。市の指導も必要だと考える。
<ul style="list-style-type: none"> ・要支援者の把握については、県の事業実施の際に、自主的に登録希望をした人の個人情報共有してよいと言われている。区長・民生委員・老人会等が集まって講習会も行った。一人の要支援者に3人の支援担当者を決めている。
<ul style="list-style-type: none"> 1. 河川の定期的な点検。特に那珂土木。 2. 河川の土砂・大きな石等の除去。
<ul style="list-style-type: none"> ・避難に耐え得る避難場所を。公民館を避難所として使うための耐震化補助について、木造から鉄骨まで広げてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の命は自分で守るが基本です。
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ協議会組織として「災害対策本部」を設立⇒自治会長からのSOSを受け対応できる自治会自主防災会が本部に参集し支援する体制。
<ul style="list-style-type: none"> ・行政区が自主防災会組織の活動に温度差がある。⇒市・コミュニティが音頭を取る訓練。行政区の自主防災組織ではなく、もう少し広域的な組織としたらどうか。
<ul style="list-style-type: none"> ・各行政区（自治会）で高齢者（弱者・要支援者）の災害時の対応を全員がよく理解しておくべし。

災害前

- ・山家はイエロー・レッドゾーンしかなく、市としても対策のしようがないと言われている。自分は、高齢の親を含む3人暮らしのため、迅速な避難ができるか不安があり大雨が降ると年に1、2度はホテルなどに避難する。車もすぐ出発できる方向を向けて駐車している。防災まもるくんや市の安全情報も入るようにしているが、災害が起きそうなときは市からの早めの情報提供が欲しい。山家1区の公民館も車が寄りつけず安全とは言えない。
- ・行政や地域の取り組みを考えるのも大事だが、まずは自助、一人一人の認識や対策の整備が大事なのでは。
- ・自然災害が一番心配です。住民の命を守るため高齢者・障がい者が取り残されない備えが必要だと思います。地域での取り組みを進めましょう。
- ・災害対策について、まず各区の水路及び側溝の清掃から始めてはどうでしょうか。
*区単位で防災訓練を実施する。

災害時

- ・筑紫駅前通りのマックスバリュの交差点信号機があるが、その信号の変化によっては事故が多発する傾向がある。要検討。
- ・コミュニティセンターの災害対応について
- ・市有地を非常時に開放してほしい。（中央通り）
- ・災害時に高齢者宅が地域との接触を持っておらず本当に困った。
- ・昨年大雨時のメール配信。小郡市、基山町からのメールはあったが、筑紫野市からは無。
- ・昼と夜間、曜日別にも対応策が必要。
- ・高齢独居者の避難が不安。
- ・災害時の筑紫野市と商業施設の協定を開示してほしい。
- ・災害時の退避できる道路の複線化。（朝倉市ではいまだに道路確保されていない）
- ・災害時の連絡網整備。安全確保のために防災無線を設置してほしい。受信機の1万円程度の自己負担もやむを得ないと考える。

災害後

- ・現状の防災対策組織には有事の際には活用できない。現実的な組織図の策定。

まとめ

・地域とのコミュニケーションを災害が起こる前からとっておかないと、災害時にどういった人を助けたらいいのか、また、自分がどういった行動をすればいいのかがわからないので、日常的に向こう三軒両隣という言葉がありますとおりにコミュニケーションをとることが大事だというご意見をいただきました。また、公民館などの避難所の備蓄品についてですが、3日間の食料を備蓄しなさいと専門家の方がよく言われますが、本当に必要なんだろうかという意見があり、地域によっては必要ないところもありますし、避難所となる公民館に行くことさえも難しい方もいらっしゃるということで、それぞれの地域性がかなり大きいということが今回よくわかりました。

自分の身を自分でまずは守ることが非常に重要であるということを確認していただいたと思います。まずは自分の命を守っていただいてご家族、隣近所の命を守ることが大切だということをもってまとめとさせていただきます。今後も委員会で皆様のご意見を反映し、議論していきます。